

次号予告

特集 精神科作業療法における評価の実践

日常生活評価……………国立精神衛生研究所 吉 沢 きみ子
 感覚統合評価……………北九州市立デイケアセンター 大 丸 幸
 前職業的評価……………川崎社会復帰医療センター 内 藤 清
 NPI 興味チェックリスト（理論的背景と評価法の説明）

……………北海道大学医療技術短大部 山 田 孝
 投影的活動を利用した人格診断……………福岡大学病院 石 谷 直 子

と び ら 精神科臨床からの声……………兵庫県立光風病院 池 上 敬一郎
 講 座 統計学 6. 相関関係……………横浜市立大学 杉 田 暉 道

老人 4. 高齢者の生活構造とその実態……………東京都老人研 奥 山 正 司
 プロGRESS 福祉機器にみるリハビリ工学の進歩……………九州芸工大 古 賀 唯 夫

リハビリテーション・インフォメーション

日本リハビリテーション医学会……………東大リハ部 上 田 敏

日本整形外科学会……………学会事務局

あ ン テ ナ 在宅心身障害児訪問看護事業……………都心障センター 寺 山 久美子

資 料 第17回理学療法士・作業療法士国家試験一模範解答（I）

編集後記

さわやかな5月、リハビリテーション学院にめでたく入学した PT, OT のたまご達もやっと学院の生活に慣れた頃と思います。「ステューデント アパシイ」と呼ばれる症状があちこちの大学に蔓延していると聴きます。昔で言うと「五月病」のようなものですが、要するに無気力、無意欲の状態です。激しい受験戦争に打ち勝って、やっと念願の大学に入れた、ヤレヤレとほっとする。そのあと何をしようかわからなくなってしまう、つまり目的を喪失したことからくる虚脱状態のようです。昔の学生は「五月病」と呼ばれるように、まもなく回復していったようですが、今の「ステューデント アパシイ」は長く続く事に問題の深刻さがあるわけです。さて、われらが後輩たる PT, OT の学生達は私のみるところ、このような病気(?)とは無縁のようにみえます。将来の自分の姿がはっきり描けている。したがって努力のしがいがあるからでしょうか。若者の大学離

れがつづき、専修学校の希望者が増えていくということですが、「ステューデント アパシイ」くい止めの妙薬の1つに、われらがリハビリテーション学院もなっているとすれば、本当に嬉しい事です。

今月号の特集、「頸髄損傷」読後感はいかがでしょうか。論文の中にも書きましたが、私は都内の頸髄損傷者の御家庭を沢山訪問してまわりました。在宅リハビリテーションが叫ばれている今日、頸髄損傷はその条件設定に最も配慮の必要な障害の1つです。リフターを駆使し、トイレ、風呂を改造し、在宅作業もよくやっているという理想的な生活をエンジョイしている方もおられました。が多くは褥創と排便の問題に悩まされ、使いづらい住宅にガマンしているというのがまだまだ実情のようでした。頸髄損傷者のリハビリテーションの発展をねがって本特集を組みました。

（寺山 久美子）

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県生活福祉部

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院長
（五十音順、以下同じ）

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビ部

荻 島 秀 男
リハビリテーションペ
イン（痛み）クリニッ
クわらび診療所

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
山梨日下部病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビ部

<編集同人>

安 達 克 己
池 田 俊 雄

伊 東 元 夫
宇都宮 初 幸

大 丸 幸 翼
金 子 矩 子

鎌 倉 克 昌
紀 伊 信 子

木 村 信 子
駒 沢 治 夫

佐 藤 馨 明
嶋 田 智 明

鈴 木 明 子
関 昌 家

高 正 明 長
中 屋 久 隆

橋 元 隆
藤 沢 しげ子

矢 谷 令 子
山 下 隆 昭

（担当 細田・西塚）